

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 11 月 19 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470501168		
法人名	医療法人社団和恒会		
事業所名	グループホーム[ふたばの家]		
所在地	呉市広白石四丁目7番30号 (電話) 0823-76-4566		
自己評価作成日	平成24年9月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3470501168-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年11月2日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

職員間で情報の提供・話し合いが出来ており一人ひとり利用者様の自立・見守り・介助の必要性を見極めながら介護にあたっている。また職員もその日の目標を持って業務にあたっており利用者様にも役割を持ってもらっている。医療の面は週一母体の病院看護婦の訪問のあり救急時の対応もできる。利用者様と職員の笑い声があり面会者とも楽しく談話されたりと明るく穏やかなホームだと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「わが家」と感じられるように、個々人の得意分野を生かした生活をしていただけることを職員一丸となってされている。そのために、個々人の得意分野、性格を熟知し、思いを把握して、掃除、洗濯物たたみ、買い物、調理の手伝いなどのこれまで普段やってきたことを自然の流れで出来るように職員一人一人が自覚し、和やかなアットホームな雰囲気を作り出している。笑顔でおしゃべりをしている利用者や職員が多い。医療面では隣接している母体の病院が救急対応されており、利用者や家族の安心を得ている。最も関心した点は、地域の自治会との繋がりで、近くのスーパーに危険なく行くことの出来る歩道を作ってもらえることが出来たのは、自治会の皆さんの声掛けで実現したことである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	全職員が理念、目標を共有し実践している。業務の前に利用者様一人ひとりに挨拶をし、近況を聞く等の声かけをしている。	理念は職員全員の意見を聞いて集約して作り上げたもので、職員間に浸透している。昨年度に引き続き、職員一人一人が一日の目標をたて実践・振り返りをしており、職員自身の自覚に繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会主体の催し物に参加している。散歩や買い物に行く際に挨拶を欠かさずスーパーの店員さんやお客さんに声をかけてもらっている。	一日2回買物へ利用者と共に出向き、近隣の方々やスーパーの店員さん達と顔馴染みとなっており、また、町内会主催の催し物に利用者と共に参加している。母体病院が地域の避難場所になるなど、日頃から双方の良い関係作りが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議に出席される地域の人にホームの内容状況を話し理解してもらえよう努めている。見学ボランティアも歓迎している。ホームで貢献できる事はないか声かけをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を法人内の地域密着施設と合同で行っている。地域代表者・御家族・市の職員が参加し状況を報告し意見交換を行っている。情報や意見を参考にサービスの向上に活かしている。	会議では、入居者状況、活動計画等について報告すると共に、毎回テーマを決めて意見交換している。出席メンバーは法人内施設と合同の開催なので、職員が多く、少し固定化の傾向である。	地域包括の参加のみで、市の担当者の参加がないので、深く情報を知るためにも、運営会議の案内や報告書を持参する等し、市担当者の参加に向けた積極的な声かけが期待される。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	分からない事があれば連絡し、またホームで発生した不明な点等は相談するようにしている。積極的とはいえない。	地域包括支援センターの職員との協働関係は出来ているが、直接、市の担当者との意見交換とはなっていないので、こちらから声掛けしていくように努めてほしい。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>ホーム内でも身体拘束など勉強会を開いており理解に努めている。身体拘束、夜間外の玄関の施錠は行っていない。</p>	<p>現在は徘徊される利用者がいないため、家族的雰囲気を壊さないように、玄関の施錠はしていない。利用者の家族によっては、施錠をしていないことで、不安と断る家族もおられる。伝達研修や勉強会等を実施し、安心安全なケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員一人ひとりの些細な事も虐待につながるかもしれないか注意を払っている。言葉の虐待にも気を付けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度は一人の利用者が利用されている。制度についての勉強会は昨年開かれている。御家族にも活用できることを説明されている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>十分な説明を行い本人の思いと御家族様の思いを聞く事にしておりまた不安を聞き納得してもらえるように心がけている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>御意見箱の設置している。また利用者様や御家族に意見や要望があれば都度聞くよう又聞きやすい様に対応を心掛けている。外出の希望には出来る限り対応している。</p>	<p>近い家族の方は2、3日おきに来ておられ、年一度の敬老会には遠方を含めて、全員の家族が来ておられ、来訪時に情報を把握している。家族の意見で多い、外出の希望は急であっても出来る限り対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員に運営等の意見や提案を聞きながらスムーズに仕事ができるように心がけている。</p>	<p>管理者と職員間に垣根がなく、日常的に意見の言い合える関係ができており、年2回のカンファレンスで、改善した点を出して、確認している。今年度は勤務時間が職場全体で変わり、30分の時間の有効利用法「外出支援と掃除の交代」を全員で考え、話し合いで納得している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>人事考査の面接があり職員各自の意見思い目標を聞き向上心を持って働けるように努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内の勉強会や外部の研修に行けるように配慮している。事業所内でも資料をもとに職員が集まり勉強会をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>同地域の同業者とは情報交換を不定期に行っているが、交流は少ない。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用者様に不安や困ったことを聞くようにしている。対話中に様子を見ながら名何が好きでどんな趣味があるかとかを話して頂けるように心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	御家族に不安な事、要望を聞きホームの内容を理解してもらいながら情報を交換しながら協力してもらえよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当の介護支援専門員と相談し、他のサービス利用もあることを付け加えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様には料理で分からない事があれば聞きながら一緒に作ったり、掃除も一緒にしたりしながら職員もホームと一緒に住む一員として共に協力してる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族に地域の事や日常的な事を教えてもらったり訪問時に近況を報告し職員や他の利用者様ともお話できるような対応に心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御家族の確認を得て、友人にホームに訪問してもらったり電話の希望があればかけてもらうようにしている。	日頃から家族や馴染みの人との交流を大切にしており、いつも近所の友人の方が2、3人で来られる利用者や、家族と一緒にこれまでの馴染みの美容院に行かれている利用者、娘さんに電話をされる利用者等関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しないように声かけをし、利用者様同士親しい関係が出来るよう支援している。ホーム内はグループがあるがグループ以外の人とも話をして楽しくあるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	病院・施設に入居された利用者様を訪問し、その職員に状況を聞き情報交換をしている。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	心地よい暮らしが出来るよう一人ひとりの希望に沿うよう ^う にしている。料理が好きで買物には料理を、買物物が好きであれば買物を、本人がしたいことが困難であれば希望に近付けるように検討している。	9名の利用者全ての方に、何か一つは出来ることをしていただいている。強制ではなく、自然にさせていただけるように個々人の性格等を把握し、実現出来る工夫、努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活を利用者様・御家族様に尋ね把握するように努めている。又いろいろな場面で利用者様が思いだされていることを職員間で伝えることにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者様のペースに合わせるように努めている。疲れやすい人には早めに臥床促したり、不安を訴えられる人には環境を変えたり、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者様の思い、御家族様の希望を聴きカンファレンスで検討し、現状にあった介護計画を作成するようにしている。</p>	<p>家族に対応した職員から希望や情報を収集して、計画の素案を作成し、他の職員・家族・関係者に見てもらってカンファレンスで検討し、修正した介護計画となっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>経過記録を毎日記録し、職員で情報を共有しながら実践し、介護計画の見直しをしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ホーム内では不可能なことは法人の代表社や理事に相談して出来るだけ利用者様や御家族様の希望に沿うようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>民生委員、町内会長・ボランティアの協力を得ている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>病院の主治医に連絡し適切な医療が受けられる。手術等で他の医療機関に行くことが必要になれば紹介してもらう。</p>	<p>現在は9人とも利用者と家族の希望により、母体の病院がかかりつけ医で、月1回定期受診をし、看護師が週1回来てくれており、適切な医療に繋がられている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護婦の訪問時に健康状態を見てもらい、職員と適切な対応が出来るよう話し合っている。介護計画においても、医療面の意見やアドバイスをもらっている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院と情報交換や相談を行い、ホームのできるリハビリ訓練等をおしえてもらい、早期に退院できるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化や終末期の対応については同意書と共に説明しており、重度化した場合には利用者様、御家族様との話し合いを行い、希望に添えるように努めている。</p>	<p>入居時に重度化した場合の対応について意向確認と、ホームとして出来ることを説明し、方針を共有している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルがあり利用者様の状態に応じて対応できるようになっている。訓練等定期的には行っていない。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>半年に一回消防訓練を行っている。母体である病院の協力がある。</p>	<p>法人全体で消防署指導の下での消防訓練を年2回実施している。ホームとしては年2回、非常ベルを鳴らして職員が利用者をホーム外に避難誘導をしている。方が一の場合には、法人全体に知らせが行き、応援に来るようになっており、法人全体で共有されている。</p>	<p>避難訓練が「ふたばの家」独自の訓練となっているので、消防署の指導の下での避難訓練が望まれる。運営推進会議へ出席してもらう等して、ホームの存在を消防署に知ってもらう努力や、地域との協力関係づくりに取り組んで頂きたい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様が言われることに対して否定をしないように対応している。又、排泄の失敗トイレ誘導は、他者の人に分からないよう声かけをしている。	利用者同士が不快感を持たない様に言葉かけや伝え方に気を配っている。「床に食事の内容物を吐き出すなどした場合でも、皆の前で否定しないで、うがいにお連れするなどして」常識のない行動をする人と他の利用者に思われないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々利用者様が思い思いに過ごされている。韓国ドラマを見たり新聞を読まれたりと塗り絵が好きな人は塗り絵等、自由に過ごされている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間や入浴時間には幅をもたせている。行事などを入れながら過ごされている。散歩等の希望があれば支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類の調整をしながら又本人の希望を入れながら、上下のバランスを取れるように気を付けている。2カ月に1回の訪問美容室を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	皆さん食事を楽しみにして頂いている。利用者と一緒に準備し配膳・食後の後片付けも手伝って下さいます。堅いものが難しい方にはやわらかく刻んだりして工夫するようにしています。	比較的自立の人が多いこともあるが、職員と一緒に食材の買い物から下準備や後片付けをしている。刺身等の生ものメニューの希望にも近くに新鮮な魚屋があり、許可が出ていることもあるが対応し、ほとんどの利用者が賑やかに話し、残さずに食べておられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立は職員が考え作っています。病院の献立表を参考にしながら、旬の食材や栄養のバランスを考えてます。小食の方水分を余り取られない方には小まめに声かけをしたりと工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとりに声かけ見守り・介助が必要な方は介助で口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者様によっては、時間を置きトイレ誘導を行っているが、自力で行われている場合もあり都度見守り・介助を行い支援している。夜間はポータブルトイレを設置して自力で行かれる。失敗もあるが、その時は声かけを早めにする等している。	職員で共有し、失敗しないようにトイレ誘導を行っている。トイレをその都度チェックし、汚れていたら、本人にそっと声掛けし、皆さんに分からないように着替えを手伝う等している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘薬を使用している利用者様もいる。水分を多めに取ってもらったり、食物繊維のある食材を料理に多めに使い食べるようにしてもらう。又運動や体操などして身体を動かすように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ほぼ毎日入浴できるように努めている。入浴時間は人それぞれで、ゆっくりされる方、一番が嫌いな方、さっと済まされる方がいる。利用者様のペースに合わせているようにしている。	極力、利用者の希望や健康状態に合わせているが、職員の手が十分にある午後を中心に、利用者のペースに合わせて、会話も楽しみながら、入浴してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>部屋やホールの室内温度・湿度・換気には気を付けて小まめに確認している。寝具の清掃・整頓は常にしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員は利用者様それぞれの薬を把握し確認しながら一人ひとりに手渡し服用してもらっている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>誕生日会・季節ごとの行事を行っている。敬老会では御家族様と一緒にバスハイクをしゆっくり一日過ごしてもらっている。バスの中では御家族様と歌ったり・表彰式をしたりと笑いがたえなかった。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>散歩・買い物等には出かけている。個人的な事は御家族様にお願いしている。</p>	<p>毎日の2回の買い物のうち、午後の便では、少人数ではあるが、職員と一緒に出掛けて、個人的な買い物もしている。遠方への外出も年数回ではあるが、花見や敬老会時に実現させている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>職員が管理している。買い物などに出かけた際、利用者様が使用した場合は後で職員が清算している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者の希望があれば、職員が電話番号を押し取り次いでいる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関に季節の花を置いたりトイレは分かりやすいように張り紙や矢印を付けたりしている。廊下には物を置かないようにしており、室温、湿度にはいつも気を付けている。</p>	<p>個々人の部屋は天井が高く、圧迫感がない。いつも多くの時間を過ごすことの多い食堂は、半分がガラス張りである、とても居心地の良い空間となっている。壁には直前の行事の写真が貼られ、玄関前の生け花が季節を感じさせている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>テーブルごとに個人専用の椅子があり、そこに座りおしゃべりをしたりされながら過ごされている。TVの前にはソファもあり利用者様も自由に使用している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>寝具や小物などは御家族様と相談しながら本人のなじみのある物を持ってきて頂いている。部屋が寂しくないように行事の写真などを飾ったりしている。</p>	<p>いつも家では目にしていた日本間が、食堂横にあり、掘りごたつにも出来るようになっている。段差があり日常的に利用は多くはないが、落ち着いた雰囲気作りに一役買っている。使い慣れたものや好みのもの等何でも持ち込み可能で、一人一人のその人らしい部屋となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>お茶は自由に飲めるように設置されている。廊下室内は転倒がない様に整理整頓している。ホール内が眩しかったりすると利用者様がカーテンを閉めたりされている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふたばの家

作成日 平成24年12月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	市担当者との連携がうすい。	直接市担当者職員との意見交換を行う。	運営推進委員会に参加して頂くよう声かけを行う。また、報告書を渡しに行く時等に話をして行く。	2年
2	35	避難訓練が単一に（ふたばの家のみで）なっている。	消防署の職員にふたばの家を知ってもらい又職員が緊急時に備えることが出来る。	年2回のうち1回は消防署の指導の下で避難訓練等を行っていく。	2年
3		勉強会への取り組みの継続をして行く。	職員の介護技術や意識の向上。	事業所内の勉強会への参加。	2年
4		利用者が、楽しく又役割をもって生活が送れるケアプランの作成。	利用者が、毎日を楽しく生き生きと生活できる。	利用者のできる事を記録・職員間で話し合いをもち共通理解をしていく。	2年
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。